

2020年 紙・板紙内需試算報告

2020年1月20日

日本製紙連合会

- I . 2019年 紙・板紙内需実績見込み・・・・・・・・P3
- II . 2020年 紙・板紙内需試算・・・・・・・・P4～5
- III . 2020年 主要品種別内需試算・・・・・・・・P6～16
- IV . 参 考・・・・・・・・P17～20

JPA I . 2019年 紙・板紙内需実績見込み

(単位:トン、%)

品 種		内 需 計									19年連合会 内需予測 (B)	伸び率誤差 (A)-(B)
		国内出荷		輸 入		計		流通在庫増減	前年比(A)			
			前年比		前年比		前年比					
紙	新聞用紙	2,406,589	▲ 7.8	4	▲ 90.5	2,406,593	▲ 7.8	—	2,406,593	▲ 7.8	▲ 6.5	▲ 1.3
	非塗工印刷用紙	1,790,303	▲ 2.5	59,192	▲ 1.4	1,849,495	▲ 2.4	13,329	1,836,166	▲ 4.0	▲ 4.0	0.0
	塗工印刷用紙	3,746,834	▲ 6.8	482,021	149.0	4,228,855	0.3	126,717	4,102,138	▲ 4.5	▲ 5.0	0.5
	情報用紙	1,342,678	0.2	467,404	2.2	1,810,082	0.7	10,294	1,799,788	▲ 0.6	▲ 1.0	0.4
	印刷・情報用紙計	6,879,815	▲ 4.4	1,008,617	41.8	7,888,432	▲ 0.2	150,340	7,738,092	▲ 3.5	▲ 3.9	0.4
	未ざらし包装紙	459,523	▲ 1.8	6,191	15.7	465,714	▲ 1.6	1,163	464,551	▲ 2.0	0.2	▲ 2.2
	ざらし包装紙	240,489	▲ 2.9	1,183	▲ 7.5	241,672	▲ 2.9	825	240,847	▲ 3.4	0.8	▲ 4.2
	包装用紙計	700,012	▲ 2.2	7,374	11.2	707,386	▲ 2.1	1,988	705,398	▲ 2.5	0.4	▲ 2.9
	衛生用紙	1,798,446	1.1	218,032	11.9	2,016,478	2.2	—	2,016,478	2.2	0.5	1.7
	紙 計	12,468,447	▲ 4.3	1,248,526	34.1	13,716,973	▲ 1.7	152,328	13,564,645	▲ 3.6	▲ 3.3	▲ 0.3
板紙	ライナー	5,498,281	▲ 1.2	36,226	▲ 23.5	5,534,507	▲ 1.4	1,445	5,533,062	▲ 1.4	1.3	▲ 2.7
	中芯原紙	3,621,989	▲ 2.0	9,104	2,681.1	3,631,093	▲ 1.8	▲ 3,128	3,634,221	▲ 1.8	1.3	▲ 3.1
	段ボール原紙計	9,120,270	▲ 1.6	45,330	▲ 5.0	9,165,600	▲ 1.6	▲ 1,683	9,167,283	▲ 1.6	1.3	▲ 2.9
	白板紙	1,404,161	▲ 3.4	426,388	▲ 1.9	1,830,549	▲ 3.0	▲ 4,512	1,835,061	▲ 2.7	0.0	▲ 2.7
	紙器用板紙計	1,538,377	▲ 3.7	426,388	▲ 1.9	1,964,765	▲ 3.3	▲ 4,967	1,969,732	▲ 2.9	0.0	▲ 2.9
	板 紙 計	11,307,101	▲ 1.9	483,160	▲ 3.1	11,790,261	▲ 2.0	▲ 6,763	11,797,024	▲ 1.9	1.0	▲ 2.9
紙・板紙計		23,775,548	▲ 3.2	1,731,686	21.1	25,507,234	▲ 1.8	145,565	25,361,669	▲ 2.8	▲ 1.3	▲ 1.5

グラフィック用紙	9,286,404	▲ 5.3	1,008,621	41.8	10,295,025	▲ 2.1	150,340	10,144,685	▲ 4.5	▲ 4.5	0.0
パッケージング用紙	12,690,698	▲ 2.1	505,033	▲ 3.5	13,195,731	▲ 2.2	▲ 4,775	13,200,506	▲ 2.2	0.9	▲ 3.1

注) 1) 紙計に雑種紙を含む。紙器用板紙計に黄チップ・色板を含む。板紙計にその他の板紙を含む。

2) 「グラフィック用紙」=新聞用紙+印刷・情報用紙、「パッケージング用紙」=包装用紙+段ボール原紙+紙器用板紙+雑種紙+その他の板紙。

JPA II. 2020年 紙・板紙内需試算 ①増減要因

プラス要因	マイナス要因
①景気は引き続き緩やかな回復基調 ②イベント開催 ・東京都知事選挙(7月) ・東京オリンピック(7-8月) ・東京パラリンピック(8-9月) ③インバウンド効果の継続 ・訪日外国人客数の増加 ・商業施設、宿泊施設等の増加 ・製造業(化粧品等)の国内回帰、等 ④脱プラスチックによる紙化の動き ▶ プラスチック製レジ袋の有料化義務化(7月) ⑤ネット通販の拡大 ⑥食品・医薬・健康関連市場は安定 ⑦うるう年	①構造的要因 ■人口の減少／少子高齢化 ■情報・広告分野を中心に電子化の影響 ・商業印刷、出版印刷向け等の減少 ・企業や自治体等の使用量の減少、ペーパーレス化(コストダウン強化、環境対応) ・スマートフォン等の利用拡大(コンテンツの充実) ■包装の合理化 ・省包装／簡易包装化 ・軟包装化等包装資材の他素材へのシフト(材質変更)、等 ②働き方改革、オリンピック・パラリンピック開催等に伴うテレワーク拡大により、電子化が加速 ▶ 働き方改革関連法順次施行(2019年4月-) ③食品ロス削減に向けた取り組み拡大による包装需要への影響 ▶ 食品ロス削減推進法施行(2019年10月)

JPA ②実績推移及び見通し

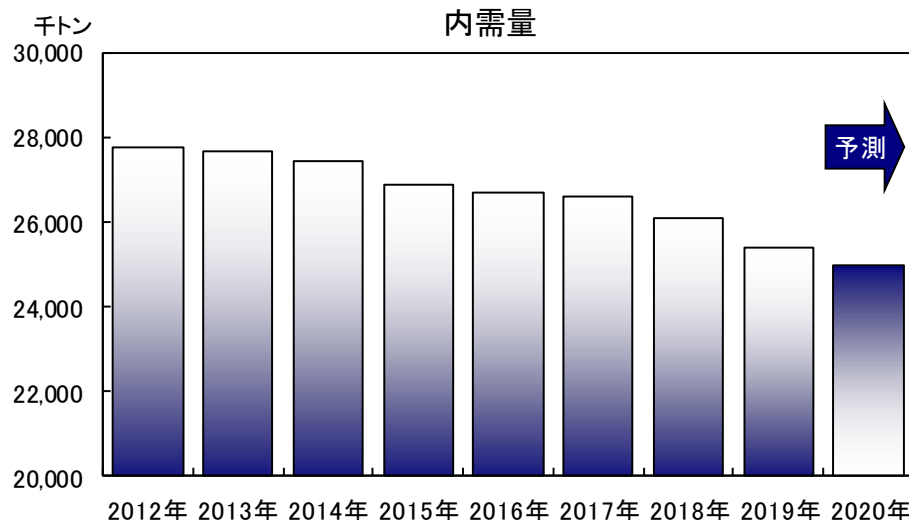
(単位:千トン、%:対前年増減率)

	品 種	2012年		2013年		2014年		2015年		2016年		2017年		2018年		2019年見込み		2020年見通し	
紙	新聞用紙	3,305	1.8	3,247	▲ 1.7	3,181	▲ 2.0	3,033	▲ 4.6	2,926	▲ 3.5	2,777	▲ 5.1	2,609	▲ 6.1	2,407	▲ 7.8	2,263	▲ 6.0
	非塗工印刷用紙	2,350	▲ 3.2	2,301	▲ 2.1	2,230	▲ 3.1	2,125	▲ 4.7	2,091	▲ 1.6	2,031	▲ 2.9	1,912	▲ 5.9	1,836	▲ 4.0	1,763	▲ 4.0
	塗工印刷用紙	5,476	▲ 2.3	5,391	▲ 1.5	5,170	▲ 4.1	4,954	▲ 4.2	4,743	▲ 4.3	4,598	▲ 3.1	4,296	▲ 6.6	4,102	▲ 4.5	3,897	▲ 5.0
	情報用紙	1,849	▲ 0.2	1,839	▲ 0.6	1,831	▲ 0.5	1,813	▲ 1.0	1,836	1.3	1,805	▲ 1.7	1,811	0.3	1,800	▲ 0.6	1,782	▲ 1.0
	印刷・情報用紙計	9,676	▲ 2.1	9,531	▲ 1.5	9,231	▲ 3.2	8,893	▲ 3.7	8,670	▲ 2.5	8,434	▲ 2.7	8,019	▲ 4.9	7,738	▲ 3.5	7,442	▲ 3.8
	未ざらし包装紙	500	▲ 6.4	492	▲ 1.5	496	0.9	471	▲ 5.0	468	▲ 0.8	469	0.3	474	1.1	465	▲ 2.0	459	▲ 1.1
	ざらし包装紙	277	▲ 5.1	269	▲ 2.6	270	0.1	258	▲ 4.4	249	▲ 3.5	245	▲ 1.6	249	1.8	241	▲ 3.4	239	▲ 0.6
	包装用紙	776	▲ 6.0	761	▲ 1.9	766	0.6	729	▲ 4.8	717	▲ 1.7	714	▲ 0.4	723	1.3	705	▲ 2.5	699	▲ 0.9
	衛生用紙	1,880	0.4	1,895	0.8	1,945	2.6	1,946	0.1	1,994	2.5	1,994	0.0	1,974	▲ 1.0	2,016	2.2	2,033	0.8
	紙 計	16,380	▲ 1.3	16,162	▲ 1.3	15,880	▲ 1.7	15,348	▲ 3.3	15,037	▲ 2.0	14,695	▲ 2.3	14,069	▲ 4.3	13,565	▲ 3.6	13,134	▲ 3.2
板	ライナー	5,207	▲ 1.5	5,276	1.3	5,330	1.0	5,336	0.1	5,431	1.8	5,553	2.2	5,614	1.1	5,533	▲ 1.4	5,561	0.5
	中芯原紙	3,477	▲ 1.1	3,511	1.0	3,547	1.0	3,549	0.1	3,590	1.2	3,652	1.7	3,700	1.3	3,634	▲ 1.8	3,652	0.5
	段ボール原紙計	8,684	▲ 1.3	8,788	1.2	8,877	1.0	8,884	0.1	9,022	1.5	9,204	2.0	9,314	1.2	9,167	▲ 1.6	9,213	0.5
	白板紙	1,888	▲ 4.4	1,901	0.7	1,858	▲ 2.3	1,838	▲ 1.0	1,856	1.0	1,884	1.5	1,886	0.1	1,835	▲ 2.7	1,802	▲ 1.8
	紙器用板紙計	2,031	▲ 4.7	2,046	0.7	2,004	▲ 2.0	1,983	▲ 1.1	1,999	0.8	2,026	1.3	2,029	0.2	1,970	▲ 2.9	1,934	▲ 1.8
	板 紙 計	11,366	▲ 2.0	11,503	1.2	11,555	0.5	11,517	▲ 0.3	11,665	1.3	11,892	1.9	12,025	1.1	11,797	▲ 1.9	11,807	0.1
紙 ・ 板紙 計		27,746	▲ 1.6	27,665	▲ 0.3	27,434	▲ 0.8	26,866	▲ 2.1	26,702	▲ 0.6	26,587	▲ 0.4	26,094	▲ 1.9	25,362	▲ 2.8	24,942	▲ 1.7
グラフィック用紙		12,980	▲ 1.1	12,778	▲ 1.6	12,411	▲ 2.9	11,926	▲ 3.9	11,596	▲ 2.8	11,212	▲ 3.3	10,628	▲ 5.2	10,145	▲ 4.5	9,704	▲ 4.3
パッケージング用紙		12,886	▲ 2.3	12,992	0.8	13,078	0.7	12,994	▲ 0.6	13,112	0.9	13,381	2.1	13,492	0.8	13,201	▲ 2.2	13,204	0.0

(注) 千トン未満を四捨五入しているため、合計と積み上げた数量の計とは合わない場合がある。なお、対前年増減率はトンベースによる。

紙計に雑種紙を含む。紙器用板紙計に黄チップ・色板を含む。板紙計にその他の板紙を含む。

JPA Ⅲ. 2020年 主要品種別内需試算：(1) 紙・板紙合計

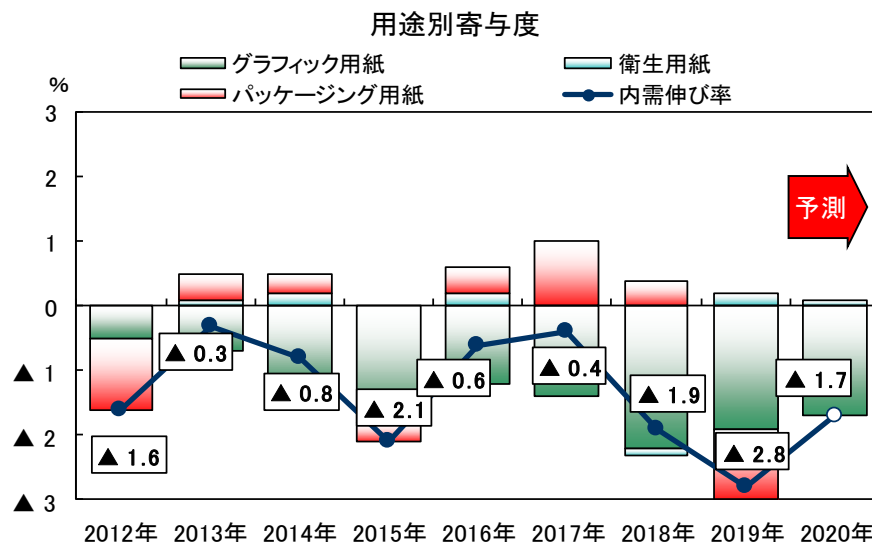


「近年の動向」

★紙・板紙の内需は、2011年以降、マイナスで推移している。これは主として、電子化等の影響によるグラフィック用紙の減少によるもの。他方、日常生活に密着した衛生用紙は底堅い推移を示している。パッケージング用紙については、飲料・食品包装向け等の伸びにより、2018年までは3年連続プラスと堅調だったが、2019年は、天候不順等の影響もあって、前年を下回った。

「2020年予測」

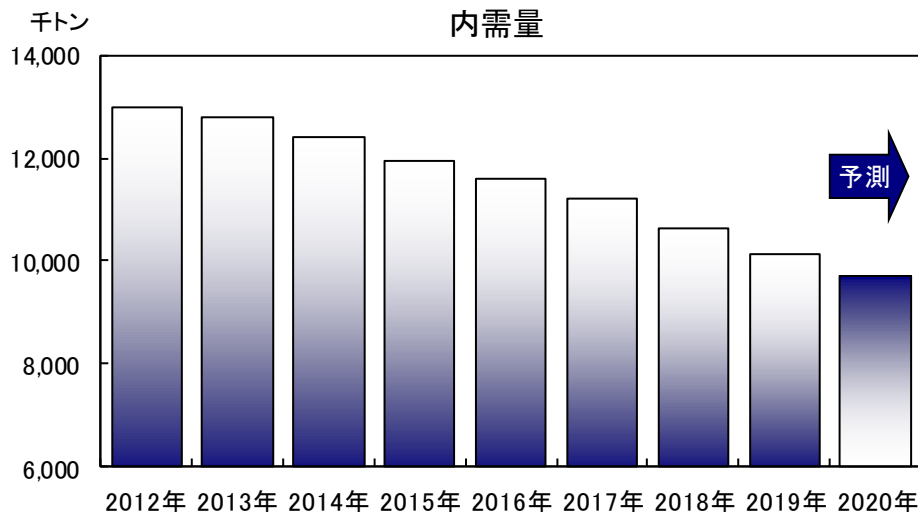
☆景気は全般として緩やかな成長が見込まれるが、紙・板紙については、2020年も基調に変化なく、グラフィック用紙の減少により、内需合計で前年を下回ると予想される。一方、衛生用紙は前年に続きプラスが期待できる。パッケージング用紙は、段ボール原紙はプラスが予想されるが、包装用紙、白板紙等は減少し、全体ではほぼ前年並みとなる見通し。



☆紙・板紙合計について、品種別試算結果を積み上げると、内需量は2,494万トン、前年に対して1.7%減となり、10年連続のマイナス成長が見込まれる。紙については、1,313万トン、3.2%減、板紙については、1,181万トン、0.1%増と予測した。なお、2020年の紙・板紙内需は、過去のピークだった2000年(3,197万トン)に対し、8割弱の水準となる見通し。

☆用途別では、グラフィック用紙が4.3%減、衛生用紙が0.8%増、パッケージング用紙が0.0%増と見込んだ。

JPA (2) グラフィック用紙

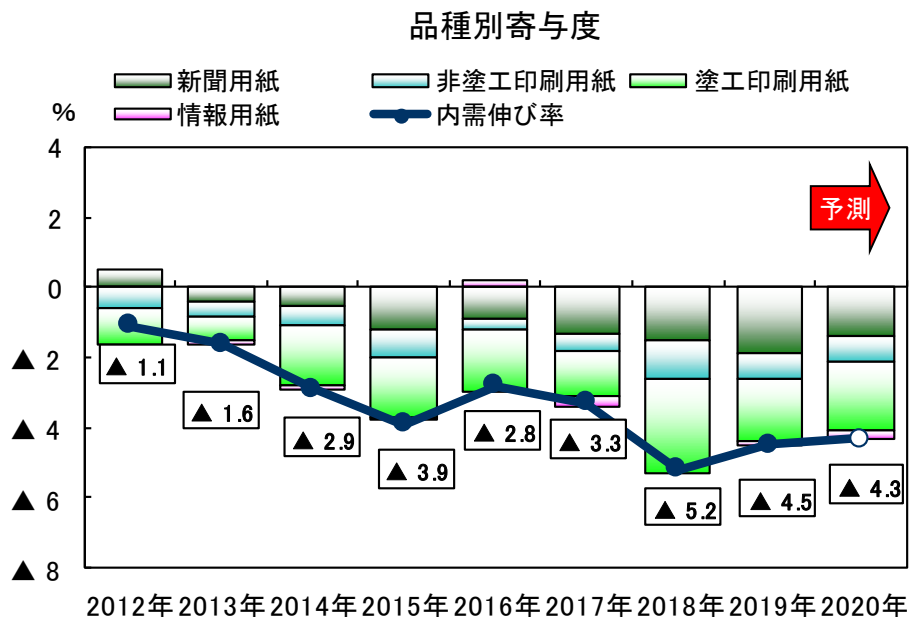


「近年の動向」

★グラフィック用紙の内需は、2006年をピークに減少している。特にリーマン・ショック後の2009年に大きく数量を落とし、その後も電子化の進行等により減少が続いた。2019年は新聞用紙、印刷用紙(非塗工、塗工)、情報用紙ともにマイナスとなり、グラフィック用紙全体では13年連続の減少となった。サプライ別には国内出荷は6年連続の減少、他方、輸入は塗工紙を中心に増加し、7年ぶりに前年を上回った。

「2020年予測」

☆新聞用紙、印刷・情報用紙ともに電子化やペーパーレス化等により減少が予想される。

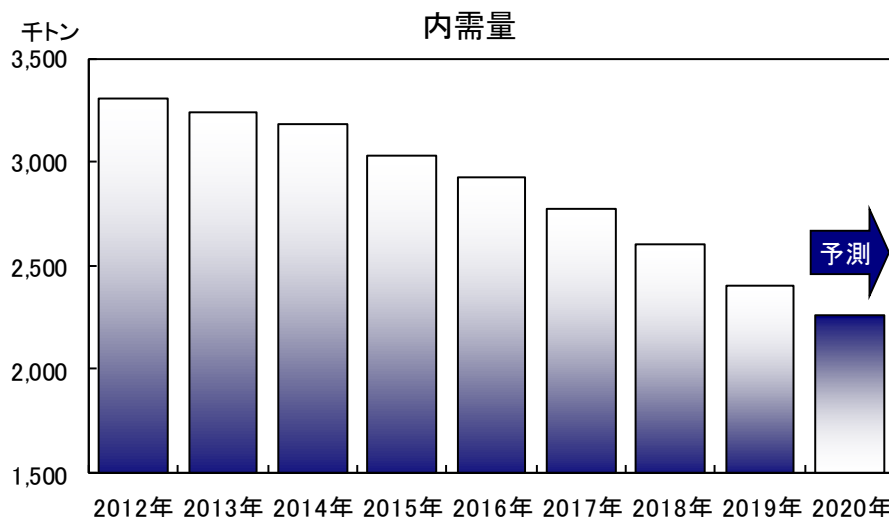


☆グラフィック用紙合計について、品種別試算結果を積み上げると、内需量は970万トン、前年に対して4.3%減となり、14年連続のマイナス成長が見込まれる。なお、2020年のグラフィック用紙の内需は、過去のピークだった2006年(1,581万トン)に対し、約6割の水準となる見通し。

☆品種別では、新聞用紙が6.0%減、非塗工印刷用紙が4.0%減、塗工印刷用紙が5.0%減、情報用紙が1.0%減と、いずれもマイナスを見込んだ。なお、東京オリンピック・パラリンピック開催に伴い、新聞用紙、印刷・情報用紙で増頁等も見込まれるが、全体の需要を押し上げるほどの効果は期待できない。

☆詳細については当該品種頁参照。

JPA (2) - ① 新聞用紙



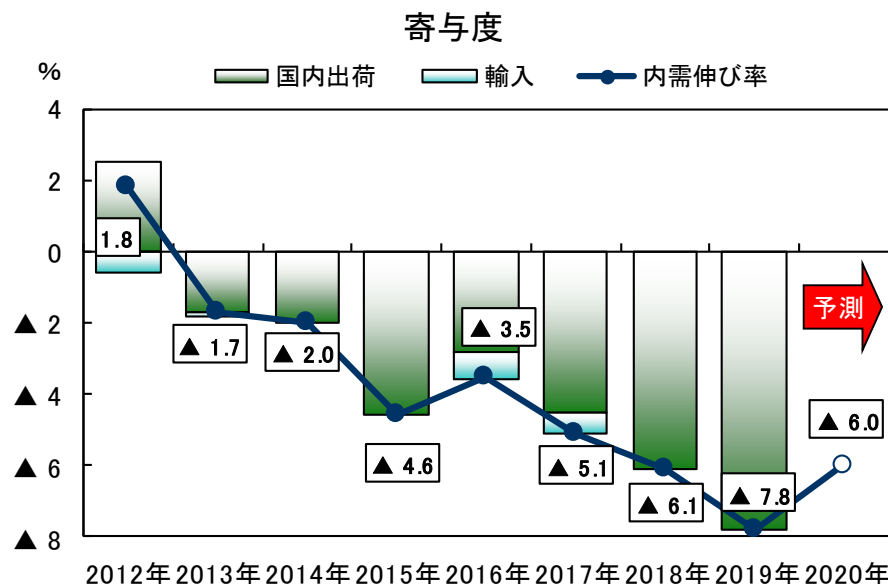
「近年の動向」

★新聞用紙の内需は、情報収集手段の多様化に伴い若年層を中心に新聞離れが進んでいることや、広告のマス媒体からネット等へのシフトといった構造要因により、減少傾向が続いている。2019年については、発行部数の減少が続いたことに加え、広告出稿減の影響もあって頁数も低調に推移し、朝刊の発行日数が前年から1日減少したことも影響して、内需は前年に対し7.8%の減少となった。

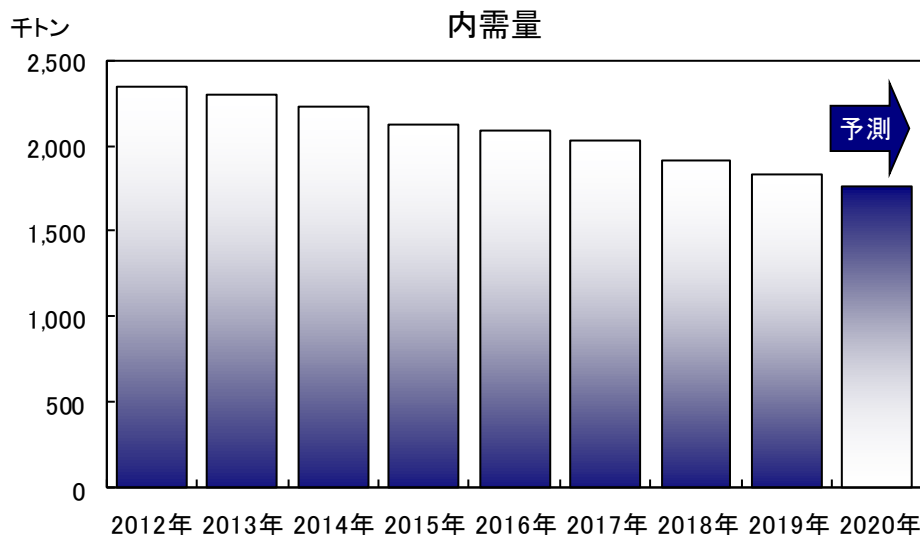
「2020年予測」

☆新聞用紙の内需は、基本的に発行部数と頁数の増減によって決まる。発行部数は引き続き減少が予想される。頁数は、広告の他媒体へのシフト継続で広告出稿が低調に推移すると見られることから、前年を下回る見通し。スポット要因としては、うるう年による発行日数増のほか、7月から9月にかけての東京オリンピック・パラリンピックに伴う増頁が見込まれるが、需要の押し上げ効果は限定的だと予想される。

☆以上を勘案し、新聞用紙の内需は前年に対し6.0%の減少を見込んだ。



JPA (2) - ② 非塗工印刷用紙



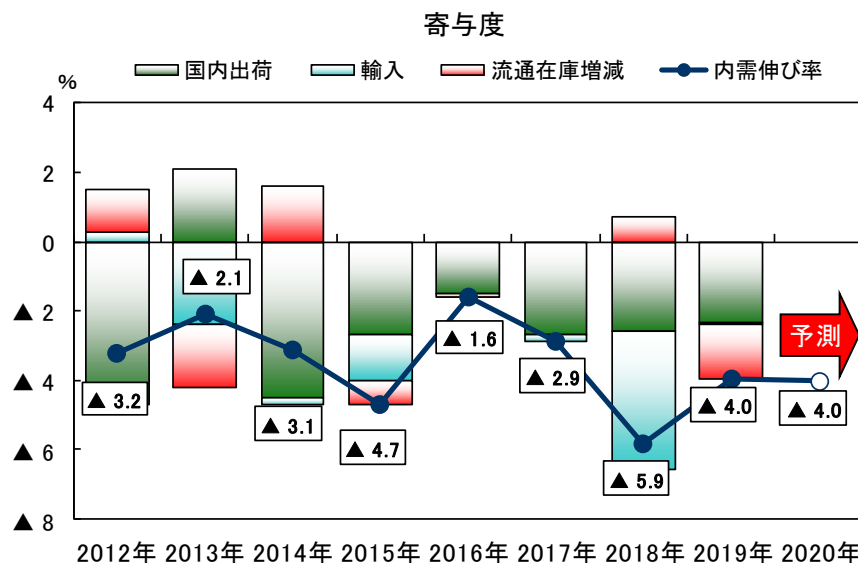
「近年の動向」

★非塗工印刷用紙の内需は、リーマン・ショック後に大きく数量を落とし、その後も中・下級印刷紙を中心に縮小が続いている。2019年も主要品種は減少し、全体では2005年以降、15年連続で前年を下回った。サプライ別にみると、国内出荷(6年連続)、輸入(3年連続)ともに前年を下回った。

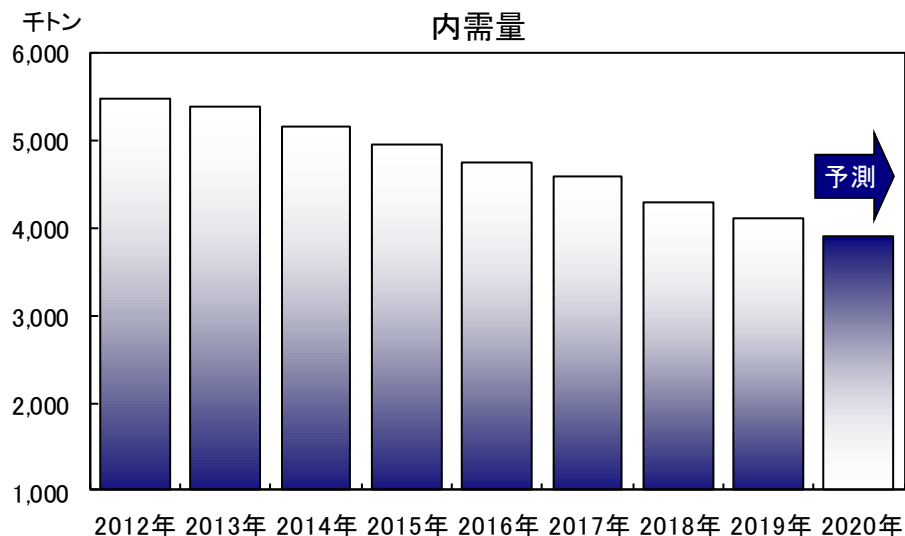
「2020年予測」

☆品種別にみると、上級印刷紙は、汎用性が高く、チラシや目論見書・取扱説明書、学習参考書等、底堅い需要があるものの、引き続き企業の経費削減、電子化の進行に伴う動きにより、前年を下回ると予想した。中・下級印刷紙は、主たる需要先である出版業界を取り巻く環境が依然として厳しく、部数の減少が続いている。雑誌向けは、電子海賊版サイトの閉鎖や映像化によるヒット作品でコミックスは比較的堅調ではあるものの、全体としては、スマートフォンやタブレット端末向けのアプリケーション・ソフトの拡大等による情報源や娯楽の多様化の影響が大きいことから、引き続き不振が予想される。なお、東京オリンピック・パラリンピック開催により、雑誌の増頁等も期待されるが、全体の需要を押し上げるほどの効果は期待できない。

☆以上を勘案し、非塗工印刷用紙の内需は前年に対し4.0%の減少を見込んだ。



JPA (2) - ③ 塗工印刷用紙

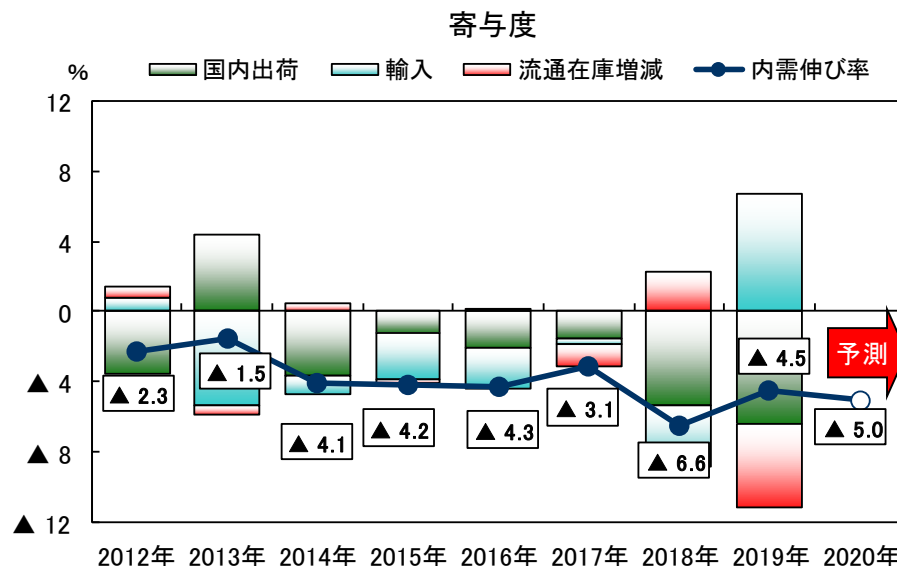


「近年の動向」

★塗工印刷用紙の内需は、2007年より縮小、特にリーマン・ショック後の2009年に大きく減少し、その後も縮小傾向にある。2019年も、引き続き電子化の進行等により、特に商業印刷を中心に減少が加速、主要品種は前年を下回った。サプライ別には、国内出荷は操業トラブル等による減産等により6年連続の減少、他方、輸入は国内メーカーの供給力低下等を背景に大きく増加、7年ぶりに前年を上回った。なお、輸入紙を中心に流通在庫は大きく増加し、全体の内需を押し下げた。

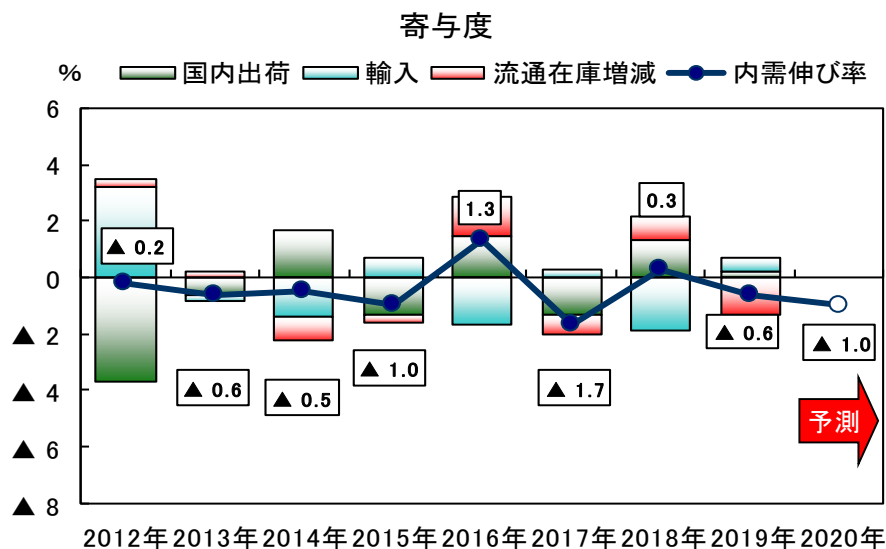
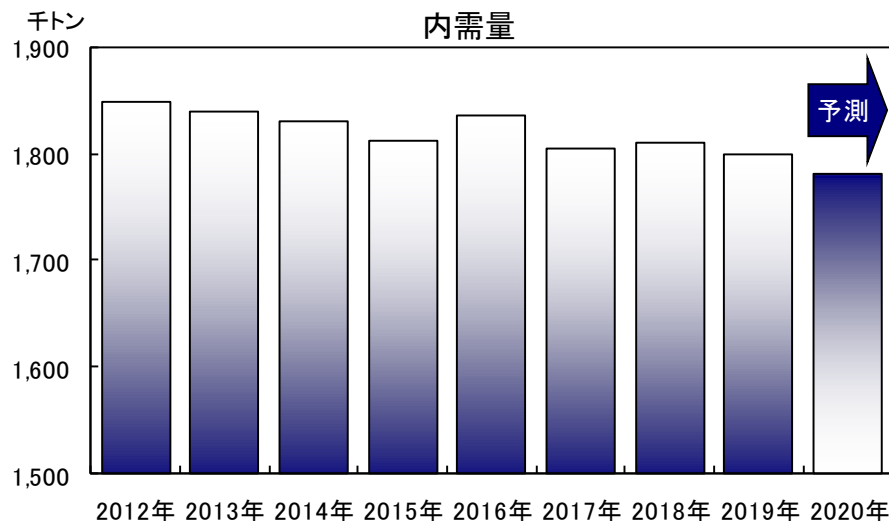
「2020年予測」

☆景気は引き続き緩やかな成長が見込まれ、広告市場全体としては増加が予想されるが、紙媒体の増加は期待できる状況にない。カタログ、チラシ等、販促用商業印刷は部数減、枚数減、サイズダウン等により、引き続き低調に推移するものと予想。また、電子チラシ、ネット広告へのシフトやグレードダウン等の動きも加速すると見られる。スポット的に東京オリンピック・パラリンピック開催により、旅行関連等のパンフレット増加や雑誌の特集号等も期待されるが、需要を押し上げる効果はごく僅かと見た。



☆以上を勘案し、塗工印刷用紙の内需は前年に対し5.0%の減少と予測した。主力品種は上質コート紙、軽量コート紙、微塗工紙、いずれも前年を下回ると見込んだ。

JPA (2) - ④ 情報用紙



「近年の動向」

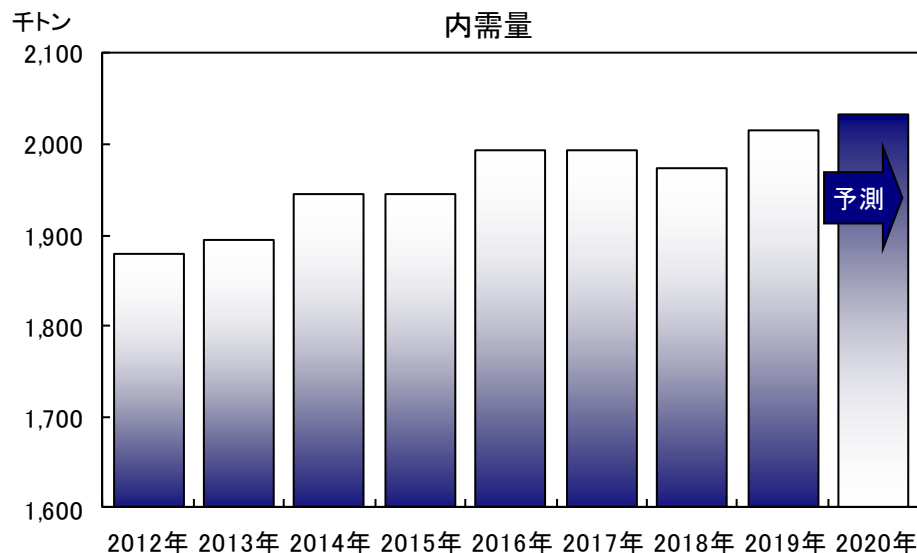
★情報用紙の内需は、2009年に大幅に減少、その後も印刷用紙よりは比較的底堅い動きとなったものの減少傾向が続いた。2019年は軽減税率制度の導入や改元により、フォーム用紙等、一部で帳票書式の見直しによる需要増も見られた。情報記録紙も感熱紙原紙が牽引し、前年を上回ったが、主力のPPC用紙は微減となり、情報用紙合計では2年ぶりのマイナスとなった。サプライ別にみると、国内出荷と輸入は前年を上回ったものの、流通在庫の増加が全体の内需を押し下げた。

「2020年予測」

☆品種別にみると、PPC用紙は、汎用性・利便性の高さから底堅く推移してきたが、引き続き企業のコストダウン強化による使用量削減に加えて、今後は働き方改革や東京オリンピック・パラリンピック等を契機として、電子化、ペーパーレス化の一層の進展が懸念されることから減少を予想。フォーム用紙は、デザインフォームのDM向け等は底堅い需要が期待できるものの、電子化、カット紙化の進展により、全体としては減少を予想した。複写原紙は、カット紙化やペーパーレス化等により、前年を下回る見通し。一方、情報記録紙は、軽減税率制度の実施によるレジ用途での感熱紙の需要増等により、前年を上回ると見た。

☆以上を勘案し、情報用紙の内需は前年に対し1.0%の減少を見込んだ。

JPA (3) 衛生用紙



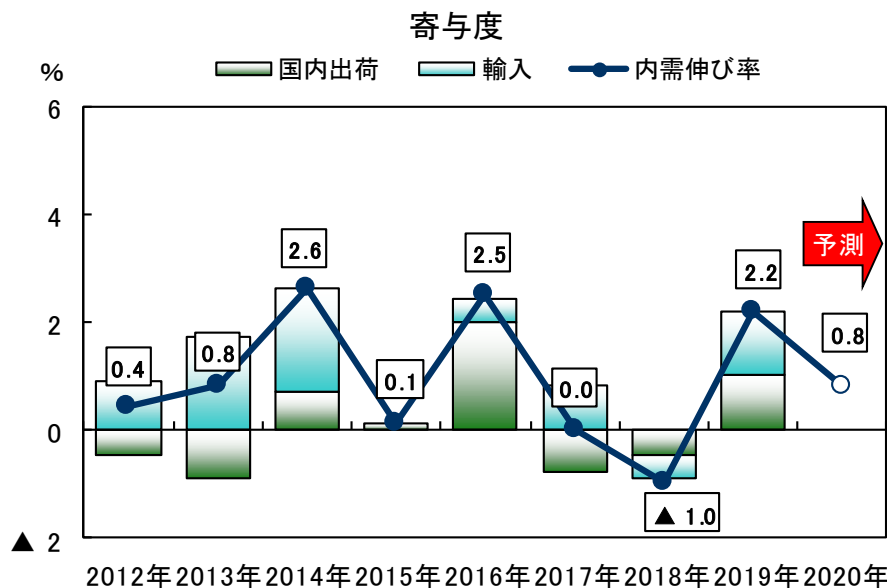
「近年の動向」

★衛生用紙の内需は、人口減少等の構造的マイナス要因はあるものの、生活必需品としての需要に加え、インバウンド需要等もあることから底堅く推移している。2019年はティシュペーパーの供給不安による在庫拡充の動き等もあり、200万トンを超え、過去最高となる見込み。国内出荷は3年ぶりの増加、輸入は2年ぶりの増加(過去最高)。

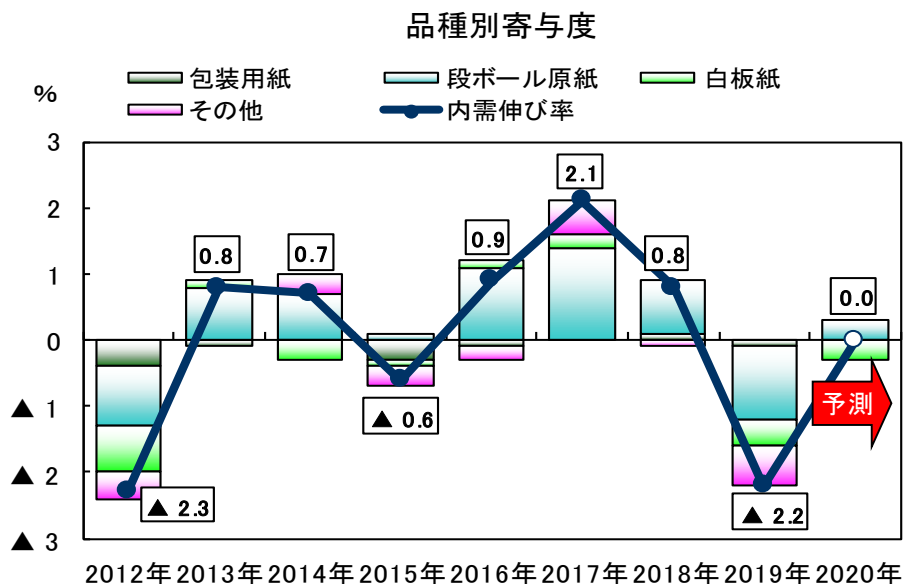
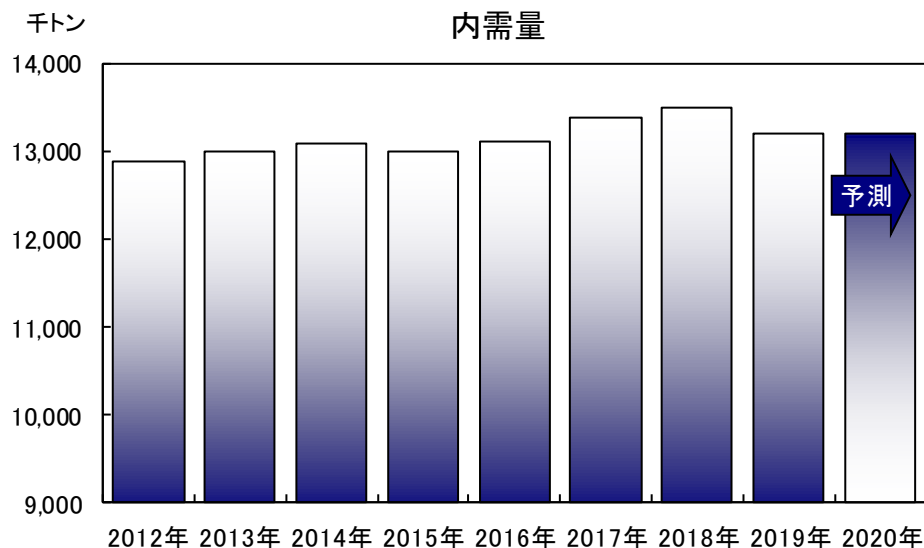
「2020年予測」

☆衛生用紙は、生活必需品としての需要や、世帯数の増加、訪日外国人の増加によるインバウンド効果等を背景にプラスが予想される。トイレtpペーパーは、インバウンド需要や、ホテル・商業施設の増加による業務用需要、倍巻製品の需要等から増加する見込み。また、タオル用紙もトイレtpペーパーと同様に業務用需要が見込まれる他、衛生意識の高まりによる家庭用需要の増加を見込みプラス。ティシュペーパーは、保湿ティシュ等の高付加価値製品の需要は引き続き見込まれるが、全体としては横ばい程度を予想した。

☆以上を勘案し、衛生用紙の内需は203万トン、前年に対し0.8%の増加を見込んだ。



JPA (4) パッケージング用紙



「近年の動向」

★パッケージング用紙の内需は、リーマンショック直後の2009年に大きく減少して以降、段ボール原紙を中心に堅調な食品需要やネット通販の拡大等に支えられて増加傾向で推移してきた。2019年は、米中貿易摩擦等による中国経済の減速に伴う世界経済の停滞の影響や天候不順等が重なり、4年ぶりに前年を下回った。

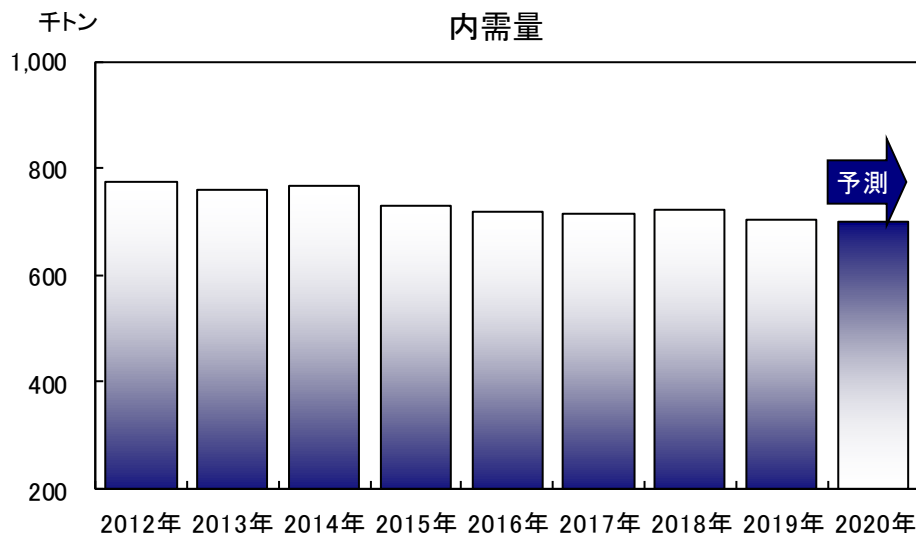
「2020年予測」

☆パッケージング用紙について、品種別試算結果を積み上げると、内需量は1,320万トン、前年に対して微増が見込まれる。なお、2020年のパッケージング用紙の内需は、過去のピークだった1997年(1,486万トン)に対し、9割弱の水準となる見通し。

☆品種別では、包装用紙は0.9%減、段ボール原紙は0.5%増、白板紙は1.8%減を見込んだ。なお、東京オリンピック・パラリンピック開催に伴い、訪日外国人による土産需要等が見込まれるが、全体の需要を大きく押し上げるほどの効果は期待できない。

☆詳細については当該品種頁参照。

JPA (4) - ① 包装用紙

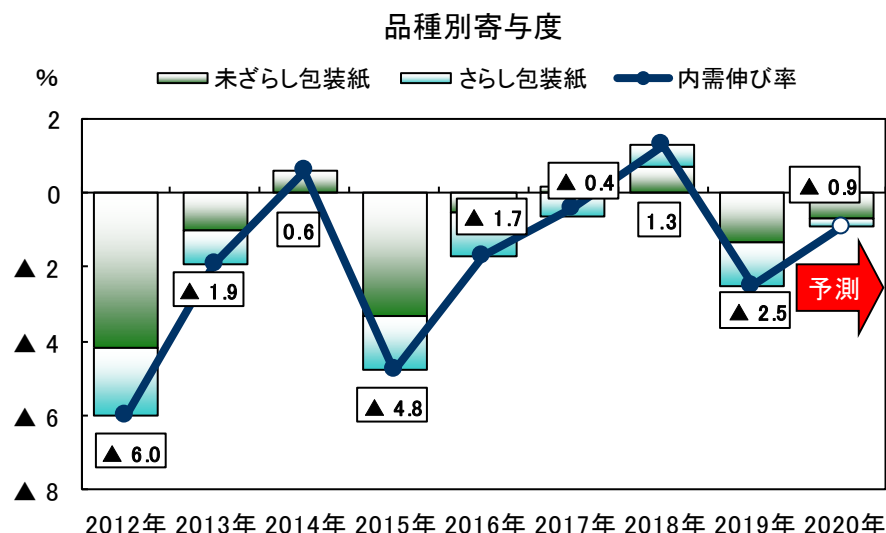


「近年の動向」

★包装用紙の内需は、簡易包装・省包装や他品種・ポリ袋等の他素材へのシフト、封筒需要の低迷等により、減少傾向で推移してきた。2019年は、前年に重包装を牽引した石化向け需要が米中貿易摩擦の影響で大きく落ち込んだことや、期待されていた脱プラスチックの動きが引き合いの段階止まりであったこと等により、前年を下回った。

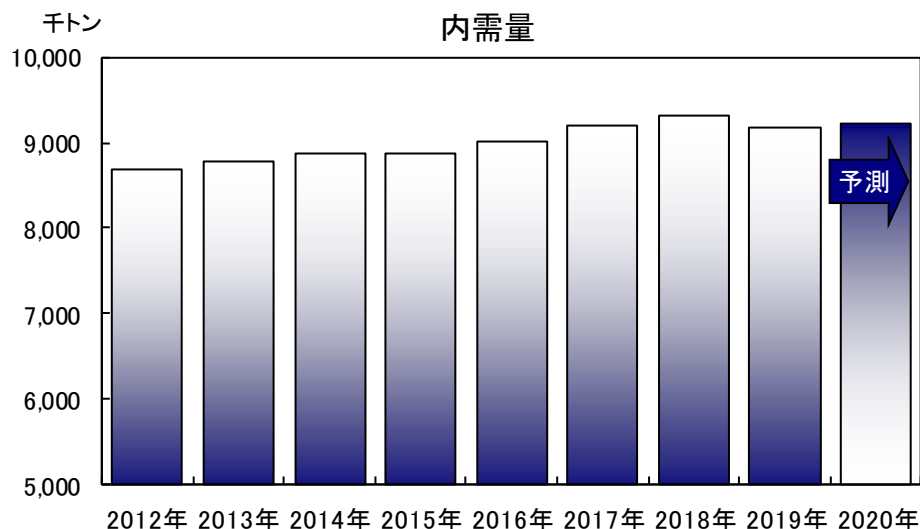
「2020年予測」

☆ユーザーのコスト意識は根強く、従来の基調に変化はないが、パッケージング用紙分野の中では脱プラスチックの動きの進展が最も期待される。品種別には、未ざらし包装紙は、軽包装ではファストフードや宅配向けの堅調な推移と脱プラスチックの恩恵による手提袋の増加が見込まれる。一方、重包装では石化向けの落ち込みは鈍化するも主力である米麦向けがフレキシブルコンテナへの切り替え等を背景に減少することから、全体では前年を下回ると予想される。さらし包装紙は、5年に1度の国勢調査用封筒が未ざらし包装紙から移行するスポット需要はあるが、他品種への切り替えの継続に加えて、脱プラスチックによる手提袋の増加は未ざらし包装紙ほど期待できないことから、前年を下回ると予想される。なお、東京オリンピック・パラリンピックの全体的な影響については、軽微と予想した。



☆以上を勘案し、包装用紙の内需は前年に対し0.9%の減少(未ざらし包装紙:1.1%減、さらし包装紙0.6%減)を見込んだ。

JPA (4) - ② 段ボール原紙

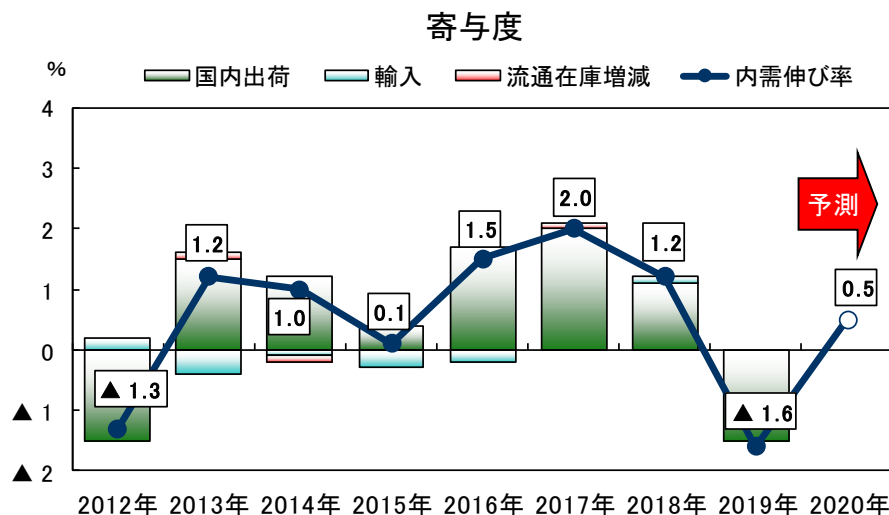


「近年の動向」

★段ボール原紙の内需は、2012年は電気・機械器具向けの不振等から前年を下回ったが、2013年以降は飲料を含む加工食品向けを中心に増加傾向で推移してきた。2019年は、米中貿易摩擦の影響を受けた世界経済の停滞による電気・機械器具向けの落ち込みや豪雨・台風等の自然災害による青果物向けの落ち込み、長梅雨による冷夏傾向を受けた清涼飲料向けの落ち込み等により、7年ぶりに前年を下回った。

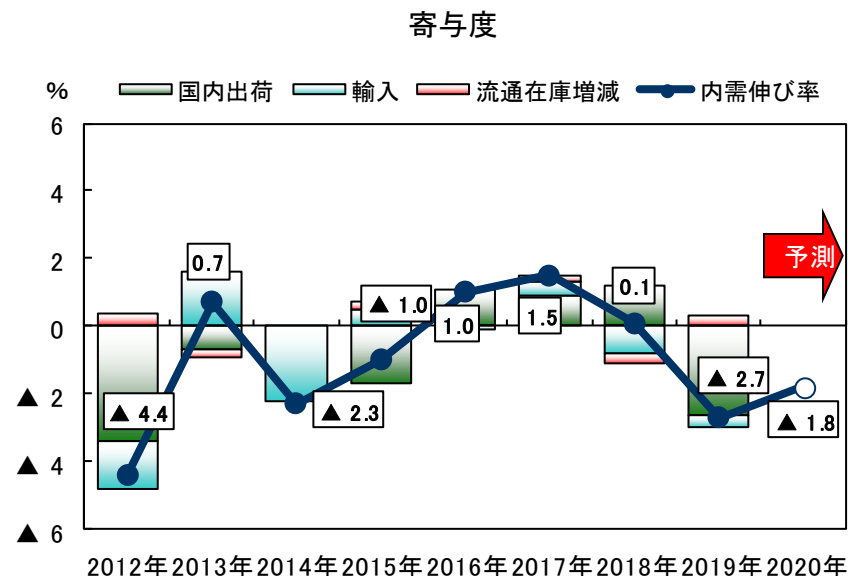
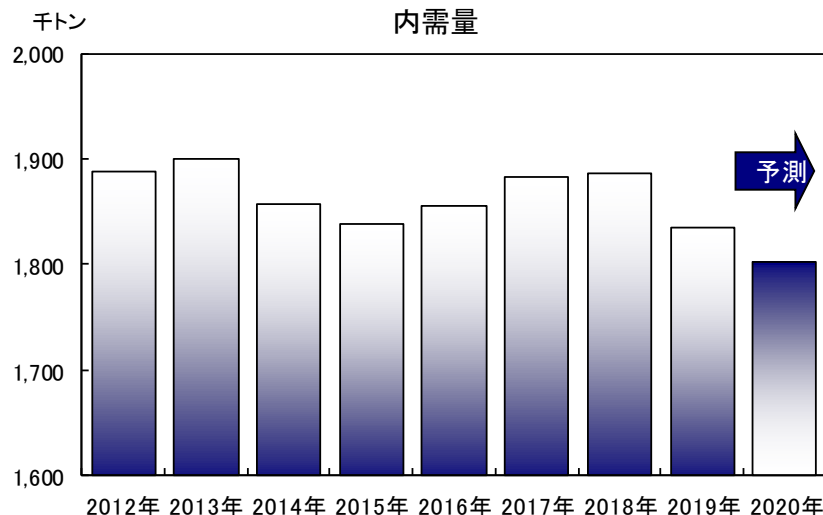
「2020年予測」

☆全国段ボール工業組合連合会の需要予測によれば、段ボールシートの生産は0.7%増が見込まれている。主要分野のうち、需要の約4割を占める加工食品向けでは茶系飲料、スポーツドリンクや冷凍食品の堅調な推移、レモンサワーやハイボール人気の継続によりRTD飲料の需要増が見込まれる。青果物向けでは前年の自然災害からの回復が見込まれる。電気・機械器具向けは東京オリンピック・パラリンピックの観戦に向けたテレビ等の買い替え需要は限定的で、横ばいが見込まれる。通販・宅配向けは簡易包装化の進展により伸びの鈍化が予想される。段ボール原紙については、これらの需要予測及び直近の軽量化を考慮して、段ボールシートよりも若干低い伸びになると予想した。



☆以上を勘案し、段ボール原紙の内需は前年に対し0.5%の増加を見込んだ。

JPA (4) - ③ 白板紙



「近年の動向」

★白板紙の内需は、省包装化や軟包装化等による需要家のコストダウンが継続する中、インバウンド効果によって2015年をボトムとして緩やかな回復傾向にあった。2019年は、需要の5割弱を占める食品向けは市場の成熟化もあり低調。医薬品・化粧品・健康食品向けを中心としたインバウンド効果が縮小したこと等により、4年ぶりに前年を下回った。

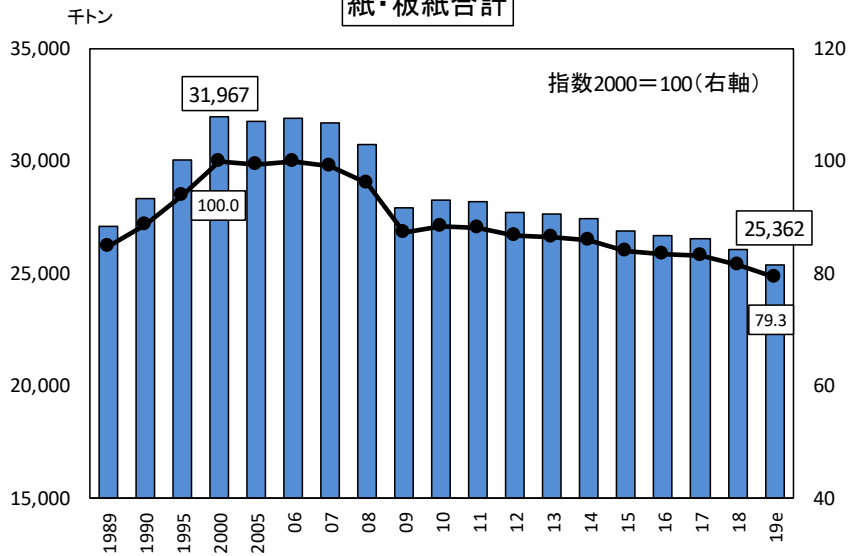
「2020年予測」

☆出版向けの減少や需要家のコストダウン強化によるPOP及びキャンペーン向け等の広告の減少、内容量の減量化によるパッケージの小型化や省包装化・軟包装化の継続、インバウンド効果は限定的である等、概ね従来の基調に変化はない。また、小売業界で進められている食品ロスの削減対策や脱プラスチックによる需要の増加は包装用紙ほど期待できないこと等もあり、白板紙全体では前年を下回ると予想される。なお、東京オリンピック・パラリンピック開催の全体的な影響については、軽微と予想した。

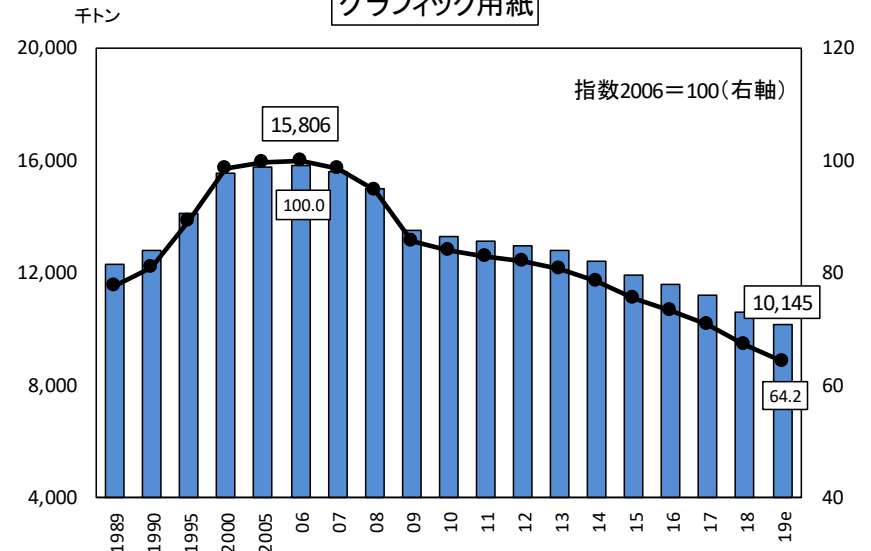
☆以上を勘案し、白板紙の内需は前年に対し1.8%の減少を見込んだ。

JPA IV. 参考①内需量ピーク時比較

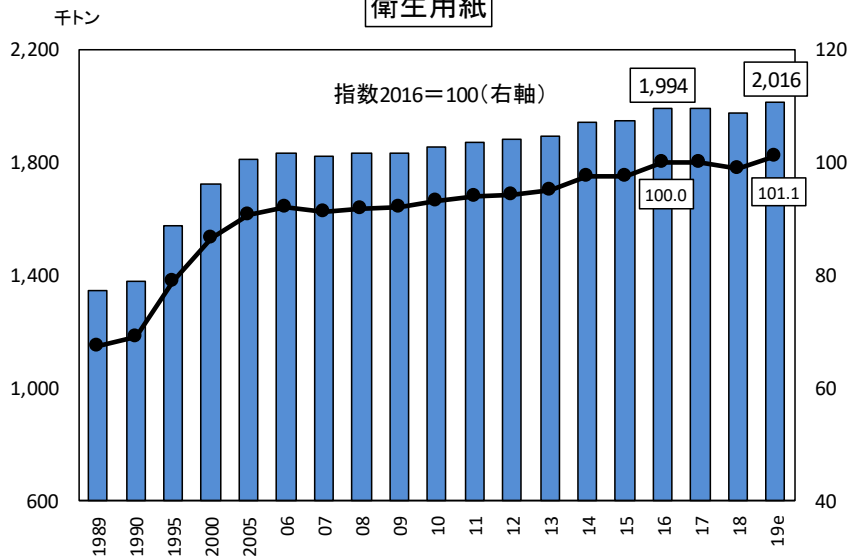
紙・板紙合計



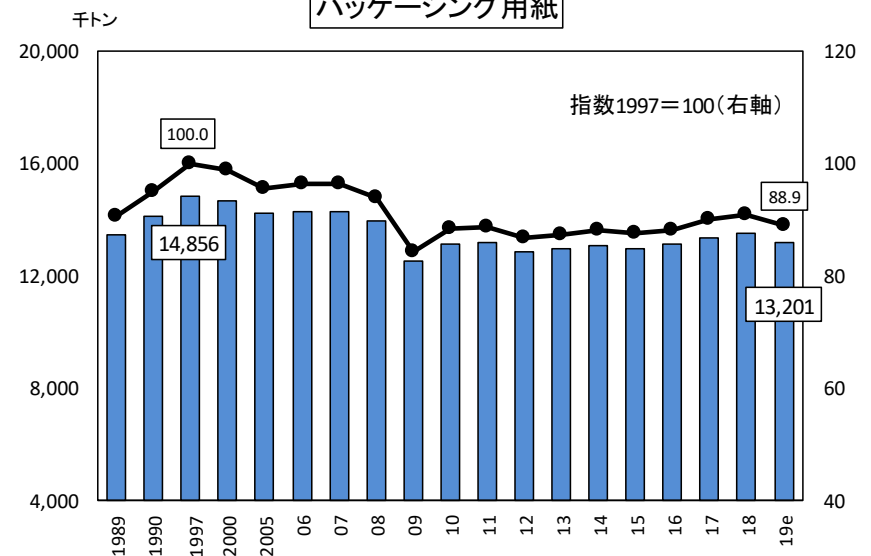
グラフィック用紙



衛生用紙

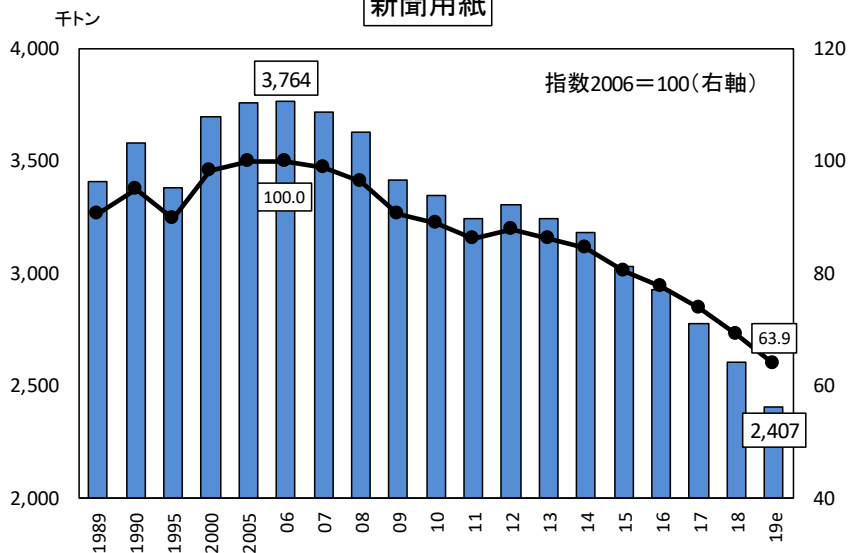


パッケージング用紙

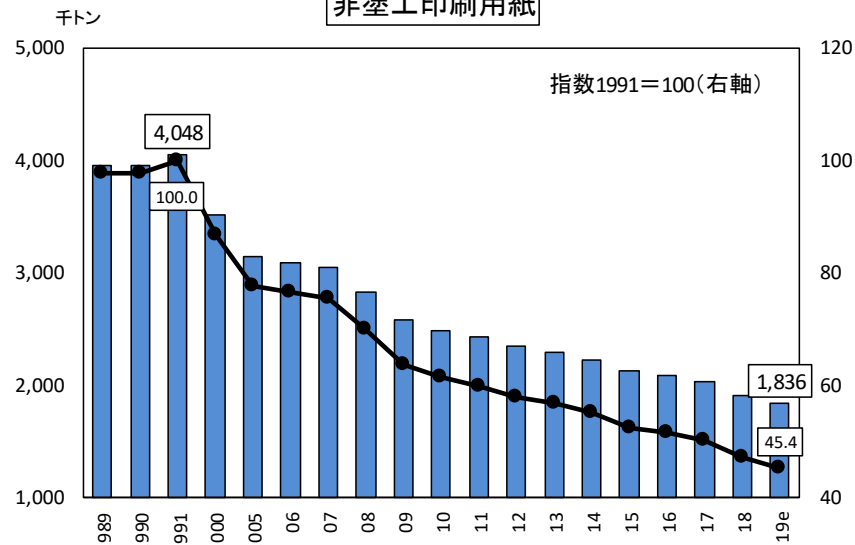


JPA IV. 参考①内需量ピーク時比較

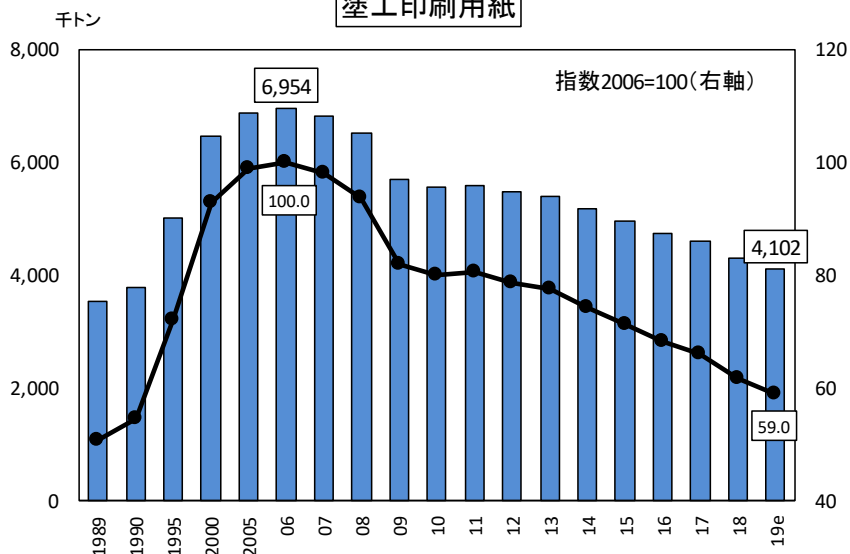
新聞用紙



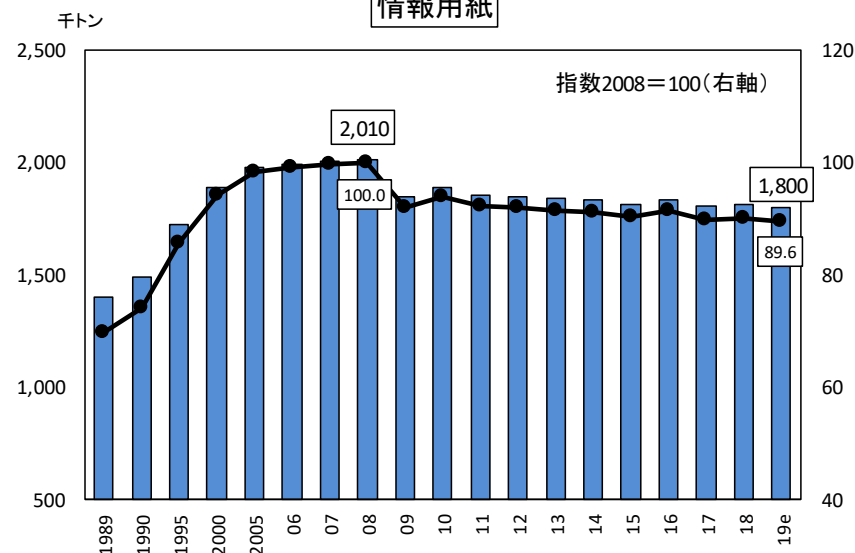
非塗工印刷用紙



塗工印刷用紙

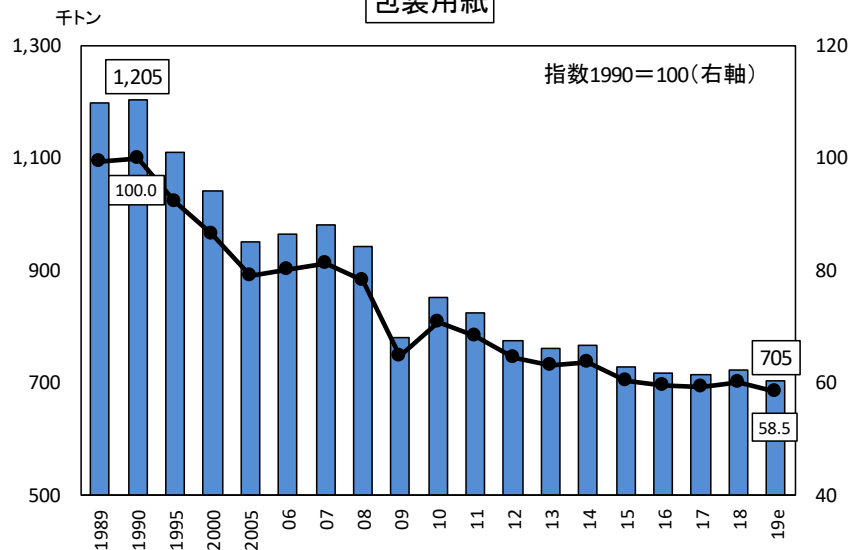


情報用紙

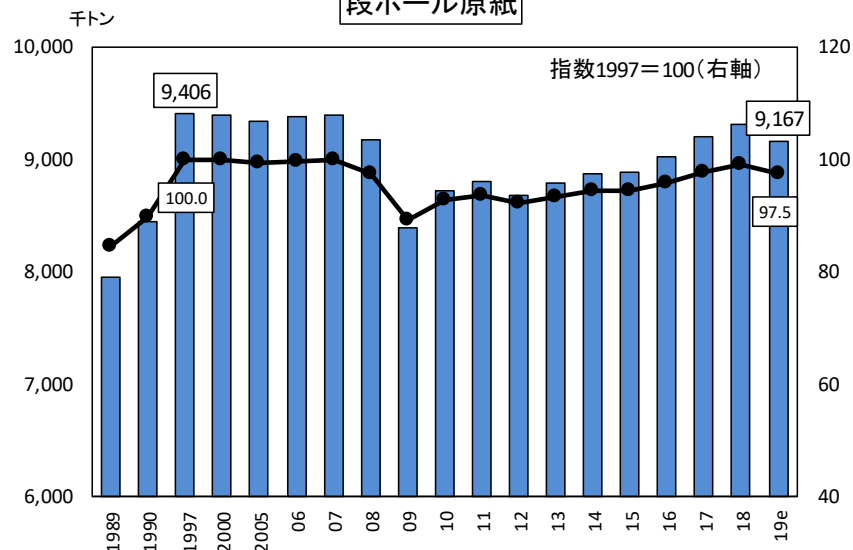


JPA IV. 参考①内需量ピーク時比較

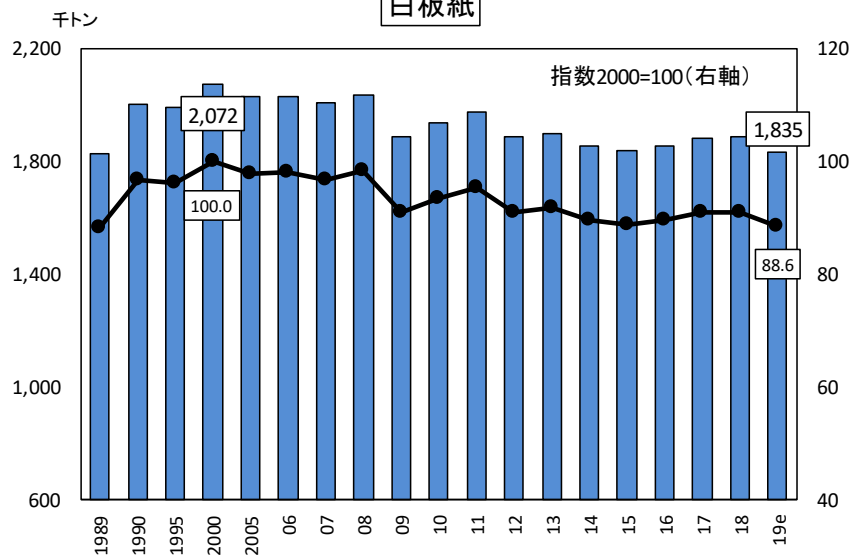
包装用紙



段ボール原紙



白板紙



内需の定義について

「内需」は、国内出荷に輸入を加えた上で、流通在庫の増減分を加味して算出している。なお、輸入には、「原紙需給に大きく影響するとみられる紙製品及び原紙に類似した紙製品」として、ティシュペーパー、トイレットペーパー、タオル用紙及びミルクカートン用紙(ポリエチレンラミネートしたもの)を含めている。

$$\text{内需量} = \text{国内出荷量} + \text{輸入量} + \text{流通在庫量の前年比増減量}$$

予測の仕方について

内需量は主要品種別に、ユーザー、流通、製紙企業それぞれの担当者へのヒアリングによる積み上げを基に試算している。

なお、予測値及び見込み数値等は2019年末時点で得られた11月までの実績を基に作成した。